

新たな希望を生み出し、ロータリーを楽しもう

2月の月間 平和構築と紛争予防月間

本日の例会プログラム 第2184回例会 令和6年3月4日

- ・結婚・誕生セレモニー
- ・会員卓話 開地俊昭 会員
- ・ロータリー情報委員会 大迫三郎 副委員長

会長挨拶

井上竜志会長



みなさん、こんにちは。本日はゲストとしまして、児童養護施設「カリタスの園竹の寮」の施設長の浜辺様、総主任の伊東様にお越し頂いております。後ほど外部卓話にてお話を賜りたいと存じます。どうぞ、ごゆっくりおくつろぎ下さい。

先週、クラブ協議会が開催され、各委員長さん達から事業の中間報告を受けたところです。

会員は5名+1名増加していますが1名退会されましたので、5名増です。

目標は5名増加でしたので、達成していますが、女性会員の入会がまだですので、今回オブザーバーとしてお越し頂いておりますので、正式に入会されれば目標達成です。皆様のご協力ありがとうございます。

そして、出席率目標85%を掲げておりましたが、あまりにもかけ離れていますので割愛します。みなさんは、サインでのメイクアップや、研修やセミナー等に参加されているのに、メイクアップされてない方も多くいますので、必ず出席カード、証明書を提出されると良いかと思います。時間をうまく利用することも大事だと思います。

社会奉仕では、園長様にもお越し頂いておりますが、その他の児童養護施設がございまして、来月に、「青島学園」、「さくら学園」、「みんせい館」へ合わせまして、くつや文具等の贈呈式がございまして。

そして、職業奉仕では、ブーゲンビレア空港に職場訪問したところですが、現在職業奉仕賞の募集を行っているところですので、この職場

出席委員会報告

田代孝尚会員

●出席状況

本日状況		前々回修正出席状況	
会員数	(54)55名	メイクアップ数	4名
本日欠席者数	22名	修正出席率	75.47%
本日出席者数	33名	メイクアップされた方(敬称略)	黒田福太郎、鈴木浩二、
出席率	61.11%	田中 博、中川英治	
ニコニコBOX	1件 2,000円 累計 190,000円	募金箱	5,341円 累計 129,518円

のこのかたは、という方がいらっしゃいましたら、ご紹介をお願いしたいと思っております。

また、青少年奉仕のサッカー大会も来月開催されます。

そのほか、奉仕以外の、それぞれの委員長さんたちも切磋琢磨してクラブを助けていただいております。私がいままでやってこれたのも、委員長の、目に見えないところでの頑張り、努力が、私の助けにもなっているものだと思います。そしてご協力頂いている皆さんに感謝します。ありがとうございます。

今週あさっては、50周年記念事業への参加を促すために、姉妹クラブの蓮田RCのほうに訪問しに行ってきます。

南クラブの事業はまだまだこれからですので、皆さんと一緒に参加して、盛り上げていきたいと思っておりますので、ご協力を宜しく願います。

幹事報告

村野 裕幹事



・タイ国チェンマイ訪問について
2019年度より、当クラブで行ったオムコーイ郡医療従事者養成奨学金事業で育成したエムワリー・ハンモンさんへの面会、現況確認、関係者への御礼のため、訪問を考えております。多くの方の御参加をお待ちしております。(3/11 締切)



井上年度第4回

宮崎南RC親睦ゴルフコンペのご案内

日時：3月24日(日) 集合 7時50分

スタート 8時21分

場所：宮崎カントリークラブ

懇親会：当日夕方より、懇親会を行います。

表彰なども行います。

ニコニコBOX



長澤好太郎会員

南ロータリーゴルフコンペで優勝しました。

表彰式・懇親会のたくさんのご参加

もありがとうございます。

●米山奨学金授与式

ロセリン イアオ メイ チンさん



外部卓話

カリタスの園の起こり

浜辺直子様



1926年(大正15)年、ヴィンセンシ

オ・チマッティ神父を団長として、サレ

ジオ会宣教師団9名が来日する。その

中の一人、アントニオ・カヴォリ神父(宮崎カトリック教会主任司祭就任)は、当時・福祉制度の乏しい社会状況の中で、身寄りのない老人や乳幼児、病人、生活困窮者の実情に心を痛め、教会活動の一つとして、「無原罪の聖母会」に家庭を訪問し、お世話することを呼びかける。

この活動は「聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会」との協働により効果的活動として展開された。カヴォリ神父は、家庭訪問だけではなく、少なくとも人間らしい最低限の生活保障のために施設建設の必要に駆られ、1932年(昭和7年)12月、老人のための家「松の寮」建設し「救護院」という名称で事業は開始。カヴォリ神父は、老人のための家は計画の一部で、その後、母国イタリアでの募金活動をし調

達した資金で1935年(昭和10)年9月、育児部「竹の寮」、託児所「桃の寮」、救護院の中心となる聖堂や管理棟である「すみれの寮」を含め、地域の必要に対応した総合施設を完成する。

事業開始に先立ち、神の愛のために無償で奉仕してくれる女性たちを募集し「愛子会員」として、カトリックの教えを基に、お年寄り・乳幼児、学童、託児所の子どもたちと共に生活し、地牧長チマッティ神父と救護院院長であるカヴォリ神父の指導の下に、神の愛に結ばれた新しい家庭の形成に尽力。国際状況の悪化と軍国主義に向かう日本社会情勢において、外国人の事業運営管理が困難となり、救護院が神の愛に結ばれた家庭的精神で継続運営されていくために、時の教皇の望みでもあった邦人修道会の創立を、チマッティ神父は、カヴォリ神父に勧める。カヴォリ神父は、責任者であったチマッティ神父の再三の勧めを受託し、救護院の職員であった愛子会会員の中から希望する者にそのための教育を始める。

1937年(昭和12)年8月、「宮崎カリタス修道女会」が誕生し、救護院は宮崎カトリック教会から宮崎カリタス修道女会に移管される。第二次世界大戦の困窮の中を生き抜いた救護院は、戦後の社会福祉事業法制定に伴い社会福祉法人として組織変更、救護院から「カリタスの園」と改称され今日に至る。

サレジオ会宣教師であったチマッティ神父、カヴォリ神父たちの一貫した願いは、サレジオ会創立者、聖ヨハネ・ボスコの「わたしに靈魂を与えてください。他のすべての者を取り去ってください。」という人々の魂の救いにありました。カヴォリ神父は貧しい人々の家庭を訪問するにあたり、福祉事業の創始者と言われるフランスの聖人、聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの「これらの最も小さな一人にしたことは、すなわち私にしたことである」(マテオ25:40)というキリストの言葉を軸に「貧しい人々の中におられる神に仕える」ことを第一の精神とした。

更に1926年に宣教師団の派遣にあたり、サレジオ会総長が餞(はなむけ)として述べた「人々の心を得る唯一の手段は愛徳である」という言葉があり、救護院での愛徳の実践においてキリストの心である慈しみ深い愛の優しさ、あたたかさを伝えるものであるように、チマッティ神父、カヴォリ神父は救護院のすべての者をイエスのみ心に捧げました。竹の寮の屋上のご像は、イエスのみ心のご像です。

すべての想いを統合して、カヴォリ神父は「カリタス」=CARITASというラテン語の名称を付けた。